

野山～石尊山山行報告

【山行日】2022年 2月 20日(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 7:30

【費 用】マイカー2台 : 700円

【メンバー】CL:鈴木、 SL大西、

植竹、大塚、嶋田、島田、関、福島、藤原7

【コースタイム】岩舟P7:30＝参道入口 P8:10/8:30～

大岩毘沙門天 9:10～展望所 9:20/9:30～

野山 10:15/10:25～剣ヶ峰 11:10/11:20～

石尊山 11:40/12:15～浄因寺 12:30/12:35～

大岩毘沙門天 13:05～参道入口 P13:35/13:50＝

アグリタウン 14:35/14:50＝岩舟支所 P15:10



この時季にBランクの陽だまりハイクと思い、野山から石尊山へのコースを計画した。

1週間前から当日の天気予報が雨で、今回は中止になってしまうかなと案じていた。しかし前日の



天気予報から好転し、雨は明け方までで9時頃から晴れの予報に変わり、予定通り実施することが出来た。岩舟支所を7時30分に出発し、登山口の参道入口駐車場に着いた。トイレがある広い駐車場は1台の車も無く、東屋前の駐車スペースに貸し切りで車を止める。出発の準備を整えたらトイレを済ませ、ストレッチを行ってから出発する。駐車場から道路を横切ると登山口があり、尾根に向かって石段を登って行く。石段が終わるとU字にえぐれた岩の登りが続くが、すぐ脇

に新たな登山道が付けられておりそちらを登って行く。男坂と呼ばれるこの道は、尾根上を真っ直ぐに大岩毘沙門天に向かう参道である。登り切ると道路を横切り、急な石段を登って大岩毘沙門天に着く。大岩毘沙門天は大岩山多門院最勝寺といい、

大和の信貴山、京都の鞍馬山とともに、「日本三毘沙門」の一つに数えられる。本堂を参拝したら左に進み、道路に出てすぐ左に大きな展望台がある。トイレがあるので済ませてからの山に向かうが、展望台前の登山道がロープと鹿避けのネットで進入禁止となっていた。仕方なく道路を右に進み、剣ヶ峰への登山道を登って行く。杉林の中を九十九折れに登って行くと、山頂手前に野山への分岐があり左に進む。杉林の道を抜けると伐採地の上に出て、展望の良い尾根を登るようになる。自然林の展望が良い道が続き、杉林に入ると先日降った雪がかなり残っていた。



「雪山みたいで楽しいね」と余裕で通過し、自然林の登山道になると雪は無くなる。378mピークを過ぎ、やせた岩尾根を慎重に下り登り返すと野山山頂に着く。東から南側の展望が開け、細長いベンチが数個設置されている。暖かい陽射しの下でデコポンや菓子をいただき、記念写真を撮ったら剣ヶ峰に向かう。剣ヶ峰への分岐まで戻り、分岐を左にほんの少し登ると剣ヶ峰山頂に出る。ベンチやテーブルが置かれ、小休止してトマトやクッキーをいただく。ここからは明るい尾根をゆるやかに下り、ゆるやかに登り返すと石尊山山頂見晴台に着く。ここには石祠や三等三角点



置かれ、展望が良くベンチやテーブル、東屋があり休憩に最適の場所である。風も無くとても暖かいのでここでランチタイムに変更して、お湯を沸かしスープやカップ麺を作る。しもつかれや出汁巻き卵、唐揚げなども出て、それぞれお気に入りの場所でランチを楽しんだ。ここからの展望は抜群で、浅間山や赤城山、袈裟丸山から日光連山まで見渡せ、周囲の山々を刻んだパノラマ板を見ながら山座同定を楽しんでいた。ランチが済んだら下山開始し、山頂北側の行道峠から浄因寺に向かう。少し下ると右手に露岩の小ピークがあり、四十九院涅槃台で寝釈迦の石像が横たわっている。急な岩を登って寝釈迦像を見たら、岩の急な坂を下って裏側から浄因寺境内に入る。山中に立派な寺院があることに驚くが、現在は住職が山を下り無人の寺になっている。寺の山門を出て石段を下り、東屋が立つ所を右に進みモノレールをまたいで山道に入る。石尊山から剣ヶ峰の東側を巻くように道が付けられ、アップダウンが少なく大岩毘沙門天に戻れる。大岩毘沙門天まで戻り、石段を下って参道を左に女坂を下って行く。女坂は谷沿いに付けられた緩やかな道で、下って行くと道路に出てほんの少し道路を下ると駐車場に着く。靴を履き替えたらずりに乗り、途中アグリタウンで買い物し無事岩舟支所に帰着した。里山の陽だまりハイクを楽しめ、皆さん大満足の山行が出来た。

ここからは明るい尾根をゆるやかに下り、ゆるやかに登り返すと石尊山山頂見晴台に着く。ここには石祠や三等三角点



ここからは明るい尾根をゆるやかに下り、ゆるやかに登り返すと石尊山山頂見晴台に着く。ここには石祠や三等三角点